

2024 年度第 3 四半期決算説明会 主な質疑応答

1. 民間エンジン事業の状況・業績について

- ・ スペアパーツの需要は力強く、第 2 四半期に続き販売増加に伴う営業利益の上方修正を行った。
- ・ 整備期間の長期化については、解消に向かっている機種もあるが、PW1100G については整備台数が積みあがっており、解消には時間が掛かる見通し。
- ・ 上記の状況から、スペアパーツ販売の増加や整備費用の発生遅れによる増益影響を、第 2 四半期に続き織り込んでいる。この影響は今後 2 年程度をかけて解消されていく。
- ・ PW1100G 追加検査プログラムの対応は順調に進んでいる中、年度末までの支払い額を精査した結果、キャッシュアウト見通しを減額したが、為替影響を除いて本プログラム対応費用の見積総額に変更はない。

2. 航空・宇宙・防衛以外のセグメントの状況について

- ・ 資源・エネルギー・環境：船舶用エンジンの不適切行為にかかる燃費補償費用を見通しに計上した。
- ・ 社会基盤：交通システム事業における不適切行為にかかる対応費用のほか、海外工事における物価上昇分の請負金獲得の交渉遅れを織り込んだ。
- ・ 産業システム・汎用機械：回転機械における中国・トルコの景気回復の遅れの影響、車両過給機の円安による原価高騰影響、構造改革費用増加を織り込んだ。

3. ライフサイクルビジネスについて

- ・ 当年度は端境期にあり一時的に減少している。特にカーボンソリューションの部分は、火力発電設備のメンテナンス工事のサイクルが影響しているが、今後も原子力を含めてカーボンニュートラルに向けた取り組みをお客さまに積極的に提案することで、ライフサイクルビジネスの拡大を加速させていきたいと考えている。

4. 構造改革について

- ・ 事業ポートフォリオ改革を進めており、第 3 四半期までに 50 億円の構造改革費用を計上済。
- ・ 議論が加速する中、現時点で全額を取崩は行わず、年度末を見据えて残額 50 億円を残している。

5. キャッシュフロー・財務基盤改善の取り組みについて

- ・ 業績は回復しているが、財務基盤についてはまだ改善の余地があると認識している。
- ・ 航空エンジン事業の今後の成長拡大のための資本の厚みを備えつつ、株主の皆様にも報いることのできるよう、事業ポートフォリオの見直し、不動産の扱い等含め、財務基盤のあり方を今後も議論していきたい。

以上